ＮＧＯ　フランシスカンズ・インターナショナル関西　レポート

総会が開かれました

９月２３日(祝)、京都のフランシスコの家（堀川四条西）で２１名の出席で開かれました。

他己紹介

総会は、最初に初めて顔を合わせる人のために、他己紹介で行われました。となりの人のことを一生懸命憶えるために気をとられて、今紹介されている人のことがあまり耳に入らないということはありますが、となりで助けたり、ヤジが入ったりして和やかに進みました。

チネカ神父の話

チネカ神父から NGO フランシスカンズ・インターナショナルの精神についてお話がありました。アシジの聖フランシスコの心と生き方を引き継いで、私たちの NGO は地球環境を守るために何か役に立ちたいという集まりですが、次のことが大切です。

① 地球を守るという意気込みも大切ですが、それより私たちが地球・自然からいただいている多くのものに感謝する気持ちで活動を行うこと。

② 自然を大切にするということは、生活で本当に必要なものだけを使い、贅沢や無駄を避ける「清貧」の心で生活すること。

③ それらのことを進めるにあたって、義務感や悲壮感ではなくいつも「喜びの気持」を忘れないこと。

地球村高木義之氏の話

短時間の休憩の後、「地球村」代表の高木義之さんのビデオテープを見ました。私たちは地球という宇宙船の乗組員という見方で、日本のゴミ問題の大きさを訴えていました。日本は欧米先進国のゴミの量に比較して１０倍以上多いこと。青酸カリの１００倍の毒性をもつダイオキシンのために先進国では使用が大きく制限されているプラスチック類を無神経に食品のトレイやラップに大量に使用していること。メーカーと消費者のゴミの責任分担が法律ではっきりしていないこと。ゴミ対策としてもっとも遅れている「再利用」の段階でしかないことなどなど。日本はゴミ後進国だという事実の話に私たちはかなり強い衝撃を受けました。

ゴミについての話合い

ビデオの後４、５人ずつに分かれて今のビデオを見て感じたことを話し合い、グループ毎にその内容を報告しあいました。まず身近に自分の生活で使い捨てのものや、缶ジュースを買うことを止めたり減らしたりすることが大切であこと。国としてゴミを減らすことに真剣に取り組もうとしていないこと。乾燥剤の石灰を土に混ぜて使ったり、生ゴミを肥料として使ったり、油を石鹸にして使ったりして、個人的にはそれぞれ努力していること。しかし個人がいくら頑張ってももっと大きく国や地方自治体がその気にならなければ限界があること。その行政の中に意識が高い人がいて改革を考えても、関係業界の圧力などにより抹殺されてしまう恐い話もあることなどなど、かなり強い印象を受けた話が出ました。

活動の祈り

最後に「アシジの聖フランシスコの平和を求める祈り」により総会を終わりました。（次ページ下）

参加者

チネカ神父、ルカ神父、ハインリッヒ神父、お告げの山内シスター、（以下あいうえお順）安藤悦子、飯山玲子、石田博和、市川克彦、市川よし、岩橋龍男、岩橋章子、岡崎知夫、奥田美弥子、酒井慶子、島本須美子、田中倭子、内藤千恵子、中村米子、永元更正、本村とも子、本村由美

米子割り箸サミット

８月２０日(金)米子市で開かれた割り箸サミットに８名参加しました。

割り箸サミット

米子の王子製紙の向井氏が提唱した「割り箸を紙に再生しよう」という運動が広がり、米子地区地球環境を考える企業懇談会主催の全国の割り箸回収を行っている人の集まりです。米子市児童文化センター多目的ホールで、東は東京、京都、奈良、西は四国の宇和島、九州の福岡から約２００人集いました。

手すきによる紙つくり体験

葉書を自分で作るコーナーが用意されていました。割り箸入り原料を金網ですくって（これがなかなか難しい）少しずつ水分を絞って取り去り、最後はアイロンで乾かすと最初の水のような原料からは信じられないような固い葉書が出来ました。（以下裏面）

事例発表･パネルディスカッション

活動をアピールするポスター優秀作品６グループの代表者がパネラーとなって行われました。うち４グループは小中学生のグループでした。活動を通じて、「苦労はあるが人のために役立つ喜びを実感した」という子供たちの感想が印象的でした。割り箸メーカーの方も参加していて、割り箸を使うこと自体は環境破壊につながるものではないこと、今回のサミットは使った割り箸を活用するということで賛同することを訴えていました。そのためか割り箸をなくそうとか減らそうという話は避けられていました。

工場見学

王子製紙米子工場を全員で見学しました。初めにとても大きくて、長い自動製紙装置で連続的に順にパルプから紙が作られていく工程を追って、「一日にこの機械で作る紙の長さは、日本列島を北から南まで敷きつめることが出来るのですよ」という説明に圧倒されました。割り箸を運び込んで処理する場所は、実際にベルト・コンベアを少し動かして下からそれに割り箸を載せ、上の機械に供給される様子を見ました。竹の箸や金物が混ざり込むと大変な手数がかかることが分かりました。

旅　程

２０日朝フランシスコの家を８人乗りワゴン車で出発、午後から米子のサミットに参加、夕食は米子駅前でとってから三朝に向かいました。三朝温泉では夜遅くまで語り合いました。翌２１日、車は人形峠、奥津温泉を経て津山市に入り、カトリック津山教会に立ち寄って聖堂で感謝のお祈りをした後に、津山城、衆楽園など見学して夕方フランシスコの家に無事帰着しました。行き帰りの車の中でも話が弾んでとても楽しい２日間でした。費用は高速道路代とガソリン代をフランシスコ会から出していただきましたが、その他の実費はみんなで割って負担しました。

参加者

チネカ神父、岩橋龍男、岩橋章子、江端浩、江端載子、岡崎知夫、内藤千恵子、中村米子

いろいろな自然環境保護の活動

メンバーはそれぞれに次のような活動を行っています

高尾山の自然保護署名

東京の東部にある貴重な生態系を保つ高尾山にトンネルを通す計画の見直しを求める運動です。

チェルノブイリ事故の被害者の救済の署名

原子力発電所の自己で今なお苦しんでいる人々に行政が適切な対応をするように求める運動です。

天ぷら油廃液を石鹸に再生

使用済みの天ぷら油を捨てずに、化学洗剤ではない石鹸を作って利用するものです。

割り箸を回収して米子に送る

使用済みの割り箸を自分たちで集め、また集めるように働きかけて製紙工場に送るものです。

生ゴミを堆肥に使う

家庭から出る生ゴミをゴミとして出さずに庭の土の堆肥として活用するものです。

乾燥剤の石灰を土質改善に使う

菓子などの食料品に入っている石灰の乾燥剤を庭の土に撒いて土質を良くするものです。

レーベンス･シューレへ参加

奈良県御杖村で、障害者と健常者が一緒になって、人工林を自然林に戻すための植林などの作業です。

ＮＧＯの会員状況

ＮＧＯフランシスカンズ・インターナショナル日本の会員は次の通りです。

会員数（1999. 9.30 現在）

日本全国	３５６名
関西支部（近畿一円）	５７名

次回の総会は、１１月３日(祝)、１４時　～　１６時　フランシスコの家で行います。
皆さんのご参加を心からお待ちしています。

発行責任者　ﾗｲﾑﾝﾄﾞ･ﾁﾈｶ神父　(NGO ﾌﾗﾝｼｽｶﾝｽﾞ・ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ日本・関西支部 代表者)
〒 600-8391 京都市下京区佐竹町 388　ﾌﾗﾝｼｽｺの家 TEL・FAX 075-822-2369